

父なる神様が共におられる

「Wesley Hall News」第 88 号 (2006 年 4 月 1 日発行) 掲載

新入生の皆さん、ご入園・ご入学おめでとうございます。また、ご父母の皆様方には、お子様のご入園・ご入学をお慶び申し上げますとともに、大切なお子様のために青山学院をお選びくださいましたことに、学校法人青山学院を代表する者として、心からの感謝を申し上げます。

青山学院は、明治初期に米国メソジスト監督教会の信仰と祈りをもって派遣された宣教師たちにより始められた三つの学校を、その創立の源流としています。それは、1874 (明治 7) 年にドーラ・E・スクーンメーカー女史によって麻布に開校された「女子小学校」、1878 (明治 11) 年にジュリアス・ソーパー博士によって築地に開校された「耕教学舎」、1879 (明治 12) 年にロバート・S・マクレイ博士によって横浜山手に開校された「美會神学校」です。これらの三つの小さな源流が、変遷を重ねながら現在の青山学院 132 年目の大きな流れへと成長してきています。

青山学院の長い歴史を顧みるとき、順調に発展してきた時期だけではなく、そこには大きな苦難の時代もありました。スクーンメーカー女史が女子小学校を始めた当時の日本は、女子に教育など必要ないとする男尊女卑的風潮が著しかったので、女子生徒を集めることは非常に困難でした。明治期には帝国憲法と教育勅語の発布による思想統一体制の確立などによって、また、大正から昭和期には国家主義・軍国主義の台頭などによって、神の前における平等と平和を説くキリスト教は否定され、学校では宗教教育を行なうことが禁じられるなど、青山学院もキリスト教学校としての存立の危機に立たされました。また、関東大震災や太平洋戦争によって、キャンパス内の建物のほとんどが倒壊・焼失するという壊滅的な打撃を受け、その復興には莫大な時間と資金を必要としました。しかし、どのような苦難の時にも、創立者はじめ諸先達はキリスト教信仰に基づく「建学の精神」を貫く道を選び、多くの方々の祈りと経済的な支援にも支えられ、今日の青山学院の礎を築いてくださいました。彼らは、青山学院の歩みの中に「父なる神様が共におられる」ことを確信し、どんな艱難をも献身的な努力によって克服してきました。

聖書には「死の陰の谷を行くときも わたしは災いを恐れない。あなたがわたしと共にいてくださる」(詩編第 23 編 4 節) また「わたしはモーセと共にいたように、あなたと共にいる。あなたを見放すことも、見捨てることもない。強く、雄々しくあれ」(ヨシユア記第 1 章 5、6 節) とあります。どうか新入生の皆さんは、それぞれの学校での学びの中で青山学院の歴史を更に深く知り、「父なる神様が共におられる」ということを具体的に学んでください。そして父なる神様が、あなたがどんなにつらいことや困難なことに出会っても、いつもあなたの隣に座り、あなたと一緒に歩いてくださり、また、歩けなくなった時にはあなたを背負い、あなたを恵みをもって生かし、愛してくださると約束しておられることを忘れないでください。

この青山学院を建て、これまで守り導いてくださった天の父なる神様は、その時々私たちに相応しい道を必ず開いてくださいます。皆さんの青山学院での学校生活の上に神様の恵みと祝福が豊かにありますように、心からお祈りしています。